



チャイニーズティーマスター 小田 純也による  
世界 中国茶紀行

Vol.7 景德鎮、磁器の故郷



中国料理 香桃の店内には、たくさんの調度品が展示されています。その中でも代表的なひとつに「景德鎮(けいとくちん) 製の磁器の焼き物」があります。

中国茶とも縁の深い景德鎮の磁器をご紹介いたします。

景德鎮は世界の磁器の故郷として長い歴史を持ち、その名は世界的にも知られています。



中国の江西省に位置する景德鎮は、長江の南岸に位置し、東は浙江省と福建省、南は広東省という、お茶栽培が盛んな名産地に接しています。



## 磁器の故郷、景德鎮の街並み

景德鎮空港に到着してすぐさま、空港内の柱に目が留まります。高速道路のエントランスや路上の信号機など、随所に焼き物が施されており街全体がアーティスティックな世界です。

移動中、タクシーの運転手の方が「このストリートは宋代から、あの通りは元代に開通した、あちらは明代、あの壁は清代」と。ざっと1,000年は遡るこの街並みに壮大な歴史を感じます。





## チャンナン、景德鎮の名の由来

景德鎮は、唐の時代（618－907）の頃は、揚子江の支流・昌江の南岸に位置するため、「昌南鎮窯」の名で焼き物づくりが栄えていました。

ヨーロッパを中心に海外に輸出された昌南鎮製の焼き物は、やがて昌南（チャンナン）と呼ばれ、これが現在の「チャイナ」に由来するといわれています。



ツルンと透き通るように白く、しっとりとした磁器の美しさに魅了された北宋の真宗皇帝（景德年間 1004－1007）は、磁器の裏底に「景德年製」と書き入れ、宮廷に納めるよう勅命を出しました。

これにより昌南鎮窯は「景德鎮窯」と改称され、これが「景德鎮」の呼称の始まりとなります。



欧米諸国で陶磁器のことを英語で「チャイナ・ウェア」と呼ぶのは、景德鎮（＝中国）製の磁器のことを「チャイナ」と呼んでいたことが由来しています。

## 貴重なカオリン石

カオリン（＝カオリナイト）とは中国原産の鉱石。かつてヨーロッパではカオリン石が採れないため、磁器は中国からの輸入に頼っていました。

そこで18世紀のイギリス・ロンドンで、カオリン石を使用する代わりに、白色粘土に牛の骨灰を混ぜる「ボーン・チャイナ」が誕生しました。

## カオリン村へ

景德鎮の市街から100kmほど離れた山間部にカオリンが採れる「高嶺村（カオリン村）」があります。



木々が生い茂る山間では、川の流れを利用した水車がハンマーを操作し、鉍石を砕きます。





意外にも「カオリン」という名はフランスで命名されました。ヨーロッパではカオリン石は採れない鉍石のため、フランス人はカオリンを研究したそうです。

カオリン石の特徴は純白で鉄分が少なく、可塑性に優れ、練り固めた後は硬くなることで、磁器づくりの原料として最適でした。



カオリン村からほど近い場所にある東阜村は、2000年前の紀元前後、漢の時代には既に焼き物が作られていたという伝説の地。その長い歴史の中で、景德鎮の磁器産業に発展をもたらしてきました。

カオリン村で採掘した良質な土は、火を起こすための薪とともに船に積み出し、東阜村を流れる川を使って昌南鎮（＝景德鎮）へ運ばれました。

中国料理 香桃の店内を飾る磁器の美しさと、その産地の悠久の歴史に思いを馳せ、中国茶とともに香桃でのひと時をお楽しみください。

撮影：小田 純也

## 中国料理 香桃

レストランのご予約・お問い合わせ

TEL 06-6343-7020（直通）

営業時間 10:00 a.m. ～ 7:00 p.m.

[rc.osarz.restaurant.rsv@ritzcarlton.com](mailto:rc.osarz.restaurant.rsv@ritzcarlton.com)

ザ・リッツ・カールトン大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目5番25号